

《02》 日本書紀を読む(9)



講師 寺田 恵子 (てらだ けいこ)

講師プロフィール

シドニー大学文学部卒業、日本女子大学大学院文学研究科修了。
学習院女子大学、日本女子大学非常勤講師、元湘南短期大学教授
古事記学会理事。上代文学会理事。
編著書(共著):『日本神話事典』『万葉ことば事典』(大和書房)など。

講座内容

『日本書紀』は、奈良時代初頭に撰進された書物です。この世の始まりである神々の時代を経て、第一代神武天皇から第四十一代持統天皇までの神話、歴史が記されています。

『日本書紀』の撰進は、養老四(720)年。今からおよそ千三百年前に書記編纂された書物であるということになります。『日本書紀』の最後を飾る持統天皇の在位は696年までですから、『日本書紀』は、奈良時代初めの人々がさらにそれ以前の歴史を記した書物であるということができるでしょう。彼らは、神代を含めた日本の歴史のはじまりをどのように記述したのでしょうか。

今回は、『日本書紀』巻十九を読みます。

巻十九は第二十九代欽明天皇の一代記です。この巻は日本書紀の中でもかなり長い巻ですが、そのかなり多くの部分が朝鮮半島関連に費やされています。当時の百済、新羅、高句麗、任那の興亡の様子が、百済を中心として語られています。

また、この巻では、仏教伝来の次第も記されています。日本における初めての仏教の受け止められ方を読みます。

ほぼ同時代の文献や中国、朝鮮半島の歴史書、地図等も参照しながら、『日本書紀』の世界を読み解いていきます。

☆予備的な知識は必要ありません。毎回プリントを配布し、それにそって読み進んでいきます。古代の世界に心を遊ばせてください。

講義日	4月	5月	6月
月曜日		11・18・25	1・8
10:40~14:30	7月		
(全10回)			

予備日：6月15日

受講料：20,000円 (@2,000円×10回) 定員：20名